

(別表第1)

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 8 月 6 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870103862
事業所名	グループホームすみれの里
(ユニット名)	かりんと
記入者(管理者)	
氏名	花山朋美
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 16 日

<p>【事業所理念】</p> <p>当たり前の生活を基礎として、生活のしにくさや生きにくさに対して笑顔と思いやりを持って支援を行い、穏やかで安心して生活出来るようお手伝いする</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1. 居室に入る際には声掛けやノックを行い必ず許可を得てから入室するように意識する                  ○居室に入る際は必ず許可を得る 不在の時は本人の傍に行き許可を得る                  (結果) 職員同士で忘れがちになっているがその都度お互い声掛け合う様にしている                  2. 事業所の防災計画の取り組みや対応について家族様に知ってほしい                  ○エントランスに地域の防災訓練に参加した写真や避難経路等を展示している                  (結果) エントランスに展示してまでもなくコロナの感染症が流行して面会が少なくなったので家族は見られる機会が少ない                  医療従事者の方が展示物を見て「あれでご飯が炊けるの?」と興味を持って頂いた事がある</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市中心部から少し離れた郊外の幹線道路沿いに事業所は位置し、周辺には店舗や会社などが多く、住宅は少ない。事業所として町内会に加入し、地域の清掃などに参加協力したり、散歩時に挨拶をしたりしているものの、地域とのつながりは少なく、新たに町内会長から運営推進会議のメンバーに民生委員を紹介してもらったことをきっかけに、地域の文化祭などの行事案内や交流を呼びかけてもらうようになり、深めるきっかけにしようとしていた矢先に、昨年から続くコロナ禍となっている。コロナ禍の収束後は、ホーム長等は地域との交流が少しずつ深められることを検討している。また、ユニット会議などを活用して、毎月施設内研修を実施したり、外部研修への参加も進めたりするなど、職員のスキルアップにも努めている。さらに、法人・事業所として、様々な福利厚生も整えられ、希望休や定められた有給休暇の取得を促したり、ホーム長等は話しやすく風通しが良くなるよう努めたりするなど、働きやすい職場づくりに努めていることもあり、長年働いている職員も多い。</p>
---	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の会話の中で、それぞれの思いや希望を汲み取っている	◎	/	○	入居時に、計画作成担当者やユニットリーダー等が利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いなどを聞き、把握できるよう努めている。把握した内容は、アセスメント情報をチェックするほか、必要事項は記載している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の状態やケアに対する反応を根拠として、本人がどうしたいのか常に検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の日常の様子を伝え、本人がどうしたいのか共に検討している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の発言や様子を見て、介護記録や申し送りでも共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	職員によって利用者の反応が違うこともあるので、職員同士でミーティングを行い本当の思いを汲み取るようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時に聞き取りや情報共有をしている。実際の本人の生活の様子やサービスの経過を家族にも定期的に報告している。その際に、それまでの本人が送っていた暮らし方との違いがないか検討している。	/	/	○	入居前に、計画作成担当者やユニットリーダー等が自宅などを訪問し、利用者や家族から生活歴や現状などを聞いている。また、計画作成担当者等が、以前利用していた介護支援専門員から情報を聞いたり、病院の退院前のカンファレンスに参加したりすることもある。また、意思疎通が難しい利用者には、職員が日々の様子を観察したり、生活の中で違う表情を見逃さないようにしたりするなど、少しでも情報が把握できるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること、できること、できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日常の本人の様子を観察したり、ケアプランとして取り組み、どこまで出来るかなどの把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の様子を観察し、介護記録や申し送りで職員同士で情報共有し把握に努めている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	本人の様子を観察し職員同士で検討したり、家族や周りの人に報告し要因がないか相談している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの様子を観察し、介護記録や申し送りで把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	家族やキーパーソンを含め、本人の思いを見出せるように検討している。	/	/	○	毎月1回、ユニット会議を実施するほか、必要に応じて、昼食休憩時などを活用してショートミーティングを実施している。現在のコロナ禍において、家族や外部からの関係者の担当者会議への参加はできていないものの、医師の往診時に指示を仰ぐほか、家族から電話で意見を聞き、意見をもとにして職員間で話し合いなど、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人が好きな物楽しんでる物等が何かを職員間で話したり聞き取りが出来るのであればさり気なく聞き取りしている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	会議等で話し合っている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人との会話や日々の様子を観察し、個別のケアプランを作成している。	/	/	/	計画作成担当者が、利用者や家族、関係者の意見を反映し、職員から出された意見やアイデアを取り入れながら、介護計画を作成している。また、「おまかせします」「いいように」などと言われる家族も多く、事業所では、いくつかの案を家族に提案したり、「何でもいいので教えてください」などと声をかけて、意見をもらえるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	運営推進会議を活用して意見を募っている。現状でできることがないか検討し、ケアプランへ反映させている。	◎	/	◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人から確認できないときは、本人が好きだったことや日課としていたことをよく知る人に確認して参考している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	できる範囲で協力し合える事を検討し盛り込むようにしている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日すぐに確認できる場所に保管し、定期的なミーティングも行い共有している。	/	/	/	ユニット毎に、書類や申し送りノートなどを保管している机の下に介護計画を置き、サービス内容などを職員がいつでも確認できるようにしている。サービスの実施記録は、介護ケアプラン実施表をチェックするほか、介護記録にも夜間は赤色、バイタルなどは青色と記載を使い分けるなど、職員が確認する時に分かりやすいようにしている。また、利用者の変化のない場合も含めて、月1回モニタリングを実施し、評価欄にホーム長や管理者等がコメントを記載している。さらに、利用者の様子や発言した「家に帰りたい」「日切焼きが食べたい」などの言葉も申し送りノートなどに記録を残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護記録や申し送りを活用している。ミーティングにて職員同士でどうだったか・どうすればよいか再検討をしている。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個別の介護記録を作成している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	個別の介護記録を作成している。又、職員同士での申し送り事項を作成している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月のミーティング活用し、定期的に行っている。	/	/	/	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。毎月モニタリングを実施し、利用者の状態を確認できている。事業所では、定期的な計画の見直し以外の計画変更をすることは少なく、入退院時にも1か月間は経過観察をして、必要に応じて見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月行っているミーティングも活用し、定期的に行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	その都度、検討を行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に行っている。	/	/	/	月1回、ユニット会議を実施し、職員間で話し合いをしている。職員から業務改善や要望なども多く出され、「声の大きさ・トーンに気をつける」「食器などの備品を丁寧に扱う」などの意見も出されている。緊急案件のある場合には休憩時間などを活用してショートミーティングを開催し、出勤職員で話し合いをしている。また、ユニット会議などに参加できなかった職員には、会議録を閲覧し、サイン又は押印をする仕組みとなっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	職員それぞれの意見を募っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	創意工夫をしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	議事録を作成し、共有している	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	介護記録、申し送りノートなども活用し共有している。	/	/	/	毎朝、申し送りを実施しているほか、申し送りノートなどを活用し、職員の確認後にはサインや名前を書き、確実な情報伝達につなげている。時にはサインがなく見えていない職員もあり、管理者等は気づきやすい場所にメモを貼ったり、声かけをしたりしている。また、個人記録などの重要事項は赤色で記載したり、分かりやすいようメモを挟んだりしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	口頭以外にも、申し送りノートを作成し共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(2) 日々の支援</b>									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の声や思いを汲み取り、検討や実施をしている。	/	/	/	着替えやおやつなど、職員が利用者へ「どれにしますか」などと声をかけ、自己決定できるよう支援している。重度な利用者にも職員が声をかけたり、アドバイスを伝えたりしているものの、利用者から「なんで」と聞かれたり、返事がないこともあるが、可能な限り、しぐさなどを見ながら選択してもらえるよう努めている。また、家族の面会時や自分の写真を見た時などに利用者の笑顔が見られるほか、うなぎなどの好きな食べ物を食べる時にはうれしそうなお顔も見ることが出来る。さらに、重度や不穏の利用者には、玄関先で外気に触れて、花を見た時には落ちつきを取り戻す場合もあり、職員は試行錯誤しながら対応をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	工夫した声掛けを心掛け、自己決定の機会をつくっている。	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	工夫した声掛けを行い、その都度判断して支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の思いを優先している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の反応や様子を見ながら、雰囲気づくりをしている。	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人の反応や様子を観察し、より良くなるような支援を心掛けている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者の尊厳を大切にしたいケアを心掛けている。利用者一人ひとりの様子や状況に合わせてケアを行なっている。	◎	○	○	月1回の施設内研修の中で、接遇をテーマに取り上げて、職員は人権や尊厳などを学び、理解している。自分で排泄ができる利用者がトイレの扉を閉めずに用を足すこともあり、周りの利用者等の目を気にして、カーテンをつける工夫もしている。耳の聞こえにくい利用者には、職員の声かけが大きくなることもあり、気づいた場合には、職員が交代して声かけをするなどの対応をしている。また、前回の外部評価の結果から、「居室の入室時の声かけやノックのほか、必ず利用者本人の許可を得てから入室する」などの項目を目標達成計画に掲げ、職員は意識して居室への入室時には「入ります」などの声をかけているほか、気になる場合には職員同士で注意し合えるように改善されている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	やさしく、さりげない声掛けを行うようにしている。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	プライバシーを守る配慮をしている。不安を感じている利用者に対しては、職員が交代するなど不安の解消に努めている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	プライバシーの空間であることを理解している。	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	施設内研修の議題として取り上げたり、学習し理解しながら行動している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	感謝を言葉にしたり、より良い関係を築けるようにしている。	/	/	/	洗濯物たたみやお盆拭きなど、利用者へ手伝わってもらった場合には、職員から「ありがとう、助かります」などの感謝の意を伝えている。職員が定期的にシーツ交換をしていることが当たり前になっていたことを、利用者から言われて職員が気づかされることもあり、事前に利用者へ確認してから交換するよう改善されている。また、認知症の進行などで、すぐに怒る利用者もいることなどからトラブルになることも多い。さらに、「そこだけ、こっち見るな」などの口げんかをなすこともあり、職員が間に入ったり、どちらかの利用者が居室に移動した後で声かけをしたりするなどの対応もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	同じテーブルに居るだけで安心出来ている様子が伺える。居なくなると不安そうに名前を読んでいる事がある	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	気の合う利用者同士を同じテーブルに座って頂き仲良くされている。仲の悪い利用者も機嫌を見て話合える機会を作っている。職員が輪に入ること仲の悪い人達も仲良く話すことが出来ている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者の様子を観察し、速やかに対処している。また、未然に防いでいる。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人やキーパーソンとの会話の中で聞き取っている。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	聞き取りが出来る利用者からははっきり聞き取りしている 聞き取りが出来ない利用者からは以前のケアマネ・家族から情報収集している				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ禍で現在出来ていない外出出来る様になったら外泊希望されている方や以前に飼っていた犬に会いに行こうと思っている				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関に季節の花や野菜などを植えて気軽に入れる様に工夫している 面会出来る時間が長い				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	できる限りの範囲で取り組んでいる。利用者一人ひとりに声掛けし、本人の要望を確認している。	○	△	○	事業所では、季節に応じてコスモスなどの花見やいちご狩りに行ったり、買い物や回転寿司などに出かけられるよう支援している。現在のコロナ禍において、外出制限は設けられているものの、利用者と一緒に事業所周辺を散歩したり、ドライブに出かけたりして、利用者が気分転換できるよう努めている。重度な利用者も、玄関先に置いている花の成長を見に行ったり、体調を見ながら日光浴や外気浴ができるよう支援している。また、外出できない代わりに、餃子やお好み焼きパーティーをしたり、かき氷や焼き鳥、とうもろこし、お寿司を提供したりするなど、事業所内で夏まつりの開催も予定している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナ禍で外出出来ないが外出出来る様になったら協力をお願いしたいと思っている				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車いすへ移乗し、可能な範囲で外出している。				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	以前に飼っていた犬に会いたいと言う利用者が居て外出出来る様になったら会いにお連れしようと思っている 家族の協力を得て				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	BPSDが起こる原因が何か考え、症状が起こらない様なケア・起こった場合の対応など学習しながらケアを行っている。				月1回実施する施設内研修で、職員は認知症のことを正しく理解している。利用者は、洗濯物たたみや玉ねぎの皮むきなど、できることを手伝っている。洗濯物をぐちゃぐちゃにたたむ利用者もいるものの、職員から手伝いのアドバイスをしたり、後でそっとたたみ直したりしている。また、事業所では、手すりを活用した屈伸運動や足上げ運動、手のグリップ運動などの毎日のリハビリ体操を取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	生活動作の中でリハビリが行えるよう検討・実施している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	本人の力でどれだけできるか観察している。危険が伴う場合は声掛けや一部介助を行いながら出来るようにケアを行っている。	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	特に生活歴から、本人の習慣ややる気が起こることを検討している。				洗濯物たたみやお盆拭き、花の水やりなど、利用者には出来る役割や出番づくりをしている。重度化や認知症などの進行により、できることは減ってきているものの、ぐちゃぐちゃな状態ながらも日課のように洗濯物をたたんでもらったり、正月には名前だけでも利用者へ書いてもらい年賀状を送ったりするなど、家族にも喜ばれている。また、利用者には風鈴の短冊に願いごとを書いてもらったり、コロナ禍以前には地域の盆踊り大会に出かけたりするなど、事業所では利用者へ楽しみが持てるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	家事など生活の中で発揮できるよう取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	コロナ禍で地域との関りが無くなっているが外出している様になったら地域の中で買い物・散歩・盆踊り等参加したい				

愛媛県グループホームすみの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	本人の好みを聞いたり、身近な人間に聞いている。				自分で髭剃りをしたり、服を選んで着替えたりする利用者もいる。衣服などの汚れが見られた場合には、職員が利用者にさりげない声かけをしながら居室に移動してもらい、着替えてもらうこともある。重度な利用者にも、職員が「どの服を着ますか」などと声かけをして選んでもらったり、表情などを汲み取って、好みの明るいキャラクターものの服を着てもらったりするなどの支援ができています。洋服が少ない利用者もおり、頻繁に着て洗濯することで、たびれたような服となった場合には、家族に持ってきてもらったり、購入を勧めたりすることもできている。また、ホーム長等は、「利用者の気分が高揚できるようにマニキュアを塗るなどのおしやれの支援を取り入れること」を考えているが、周りの利用者の不穏なども考え、控えざるを得ない状況となっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	利用者の意向が確認出来る方には希望を必ず確認している。確認できない方には家族と相談したり生活歴を参考にしている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	職員同士で話合ったり自己決定が出来なくても本人の気持ちになり支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	正月・祭り他イベントの時には必ず更衣をしている。そのひと年齢・好みを参考にしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりけなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	言葉を使い換えたり、自尊心が傷つけないようにしている。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族やキーパーソンの協力も求め、希望に添えるようにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	毎日の更衣や整容で本人で難しいことは支援している。また、訪問でヘアカットをお願いしている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることの大切さだけでなく、起こりうるリスクについても理解を深めている。				職員が利用者から好みのメニューなどの意見を取り入れ、1週間分の献立を作成している。食材は業者に発注し、それぞれのユニットで職員が調理をしている。職員は献立づくりに給食のメニューを参考にしたり、YouTubeの映像を見て参考にしながら調理したりすることもある。利用者の認知症や重度化が進行し、手伝いができる利用者はほとんどいなくなったが、ユニットで唯一の利用者が手伝ってくれるものの、やらされ感を持たないように、職員が「手がふさがっているので手伝って」などの声かけを工夫している。利用者の状態に合わせて、ごはんを柔らかめに炊いたり、ミキサー食にしたりする対応をしている。嫌いなものがある場合には、別の食材を用意している。フロアには調理の音や匂いも漂い、調理中にも献立などの話しをすることもできているものの、利用者から匂いで、「焦げている」と言われたこともある。また、職員から「利用者と一緒に食べていると、休憩時間が取れない」との意見が出され、事業所では働き方改革などにも対応し、現在は利用者と一緒に食事を摂っていない。さらに、コロナ禍以前にはよく外出にも出かけることができていたが、現在は外出制限が設けられているものの、事業所では餃子やお好み焼きパーティーなどを取り入れたり、ホットケーキやおはぎづくりをしたり、土用の丑の日にはウナギを提供するなど、利用者が楽しめるような工夫もしている。誕生日には、15cmぐらいのバケツプリンを作り、切り分けて食べたこともある。献立は栄養士からアドバイスをもらえることはできていないものの、医師から「炭水化物を減らして、体重を維持するように」などの助言をもらっているほか、職員間で話し合いもしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	○	献立を立てる時に利用者へ食べたいものや好きなものの意見を聞いている。下膳などできょうなことは声掛けし行っている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できそうなことは行い、感謝の言葉をかけたり失敗した時は自信を無くさないように声をかけている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	入所の時にも確認しているが、本人とよく知る人に会話の中で聞き取って把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	本人や本人をよく知る人に、好みやアレルギーがないか聞き取りしている。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	○	配膳時や食事中に本人の反応・発言など観察している。食事の形態に関わらず、見た目でも楽しめるように工夫している。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	以前より本人が使っていたものを使うようにしている。傷んだ場合はそれに近いものを用意するようにしている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	コロナ禍につき食卓を囲むことはしていないが、一人ひとりに注意を配り見守りや声掛けを行っている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わかるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中も会話の中で、食事の時間や味付けの好みなどを話しに織り込んでいる。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	本人の体重や全身状態を主治医と相談しながら、十分な食事を提供している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	おやつやコーヒーの時間を作って、定期的な水分補給を勧めている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	食材発注の関係もあり、コンスタントに(2~3日分)複数名の職員で献立を立てている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	生ものは避け、食器は熱湯やハイターで消毒を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	誤嚥性肺炎について、定期的に勉強会を行っている。歯科にもアドバイスを頂いている。				事業所では、定期的に口腔ケアの研修を実施しているほか、歯科衛生士の訪問時には、唾液が出やすいようなマッサージや口腔ケアのやり方などのアドバイスをもらっている。毎食後に、利用者は洗面台で口腔ケアを実施し、職員はできないことを介助している。月1回、歯科医の住診もあり、定期的に利用者の口腔内の状況を把握することができる。また、義歯は洗浄液に浸けるなど、清潔保持にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食事の様子や、口腔ケアの際にチェックしている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	アドバイスを頂いたり、解らない事は相談している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	口腔ケアの様子を観察している。必要な場合は声掛けを行っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	できること、できそうなことは取り組んで頂き、必要なフォローを行っている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	異常や違和感があれば、早めに相談している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	できるだけトイレでの排泄が出来るように支援している。むやみにオムツや紙パンツを使用しないようにしている。				職員が声かけや誘導をしながら、利用者ができるだけトイレで排泄ができるよう支援している。排泄管理表や介護記録に記録し、職員は利用者の排泄状況を把握している。事業所には、リハビリパンツや紙パンツを履いている利用者も多く、布パンツに変更することを進めているものの、利用者が失敗などを恐れ、変更となるまでには至っていない。また、便秘などのため、服薬している利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便の有無を毎日確認し、本人の様子を職員同士で申し送りをしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	介護記録や24時間排泄のチェックシートを活用し、情報共有を行っている。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	出来るだけトイレで排泄が出来るように支援している。必要性を感じたら、ミーティングで話し合い、本人やご家族へ相談している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	取り組んでいる。危険がないか考慮し、支援が必要なことや、どうすれば改善があったか職員同士で情報共有をしている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	失敗があった時の事を参考にし、早めの声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	必要性があれば、職員のミーティングで検討し、本人や家族と相談している。使用時の感想や本人に合っているのが、再度検討している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	本人の状態をみて、おむつや紙パンツ・パットの位置や当て方をその都度工夫している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	足上げ運動や廊下歩行、周囲の散歩を日常の中で勧めている。それでも排便が無いときは腹部のマッサージを行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	時間帯や温度設定を本人に合わせている。	◎		○	利用者は、週2〜3回入浴することができる。入浴を嫌う利用者もおり、無理強いすることもなく、日や時間を変更したり、声かけや介助をする職員を交代したりするなど、入浴できるよう工夫している。事業所には特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて個別浴槽と使い分け、安心安全な入浴を支援している。事業所では、事前に入浴できる日を決め、午前と午後時間帯に入浴できるようにしている。また、湯船に浸かる時間や温度などにも対応したり、沐浴剤を入れたりするなど、利用者がゆったりと入浴できるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	入浴時は本人のペースに合わせている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ること、出来るようなことは危険を考慮して声掛けを行っている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	本人や本人をよく知る人と話をし原因がないか検討している。また、スムーズに入浴できた時の要因も検討している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルサインや本人の意思を確認している。入浴中・入浴後も観察を行っている。				

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜間や日中の様子を記録し、職員同士で共有している。				事業所には、数名眠剤などを使用している利用者もいる。精神面や認知症の進行で、夜間も含めてほとんど眠れず、すぐに怒る利用者や、日中に寝て夕方から目を輝かせるような利用者もおり、体調面も考えて、医師と相談しながら対応している。日中の活動量や会話を増やすなど、昼になるべく起きて過ごしてもらい、職員は夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、夜早く寝付いて朝早く起きる利用者もおり、早朝4時からテレビの時代劇を見ている利用者もいる。さらに、センサーマットなどを活用している利用者もおり、職員は極力他の利用者にも影響が及ばないような配慮もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動や会話を増やして、気分転換を図っている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	主治医へ相談をする前に、まずどうすればゆっくり休んで頂けるかを職員同士で話し合っている。日常生活の中で改善できそうな事があれば、支援を行っている。				
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の様子をみて、しんどそうな時は声をかけている。又、ケガや疾患のある方にも声をかけている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人の希望には可能な範囲で応えている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	本人がどこまで出来るか見極めながら支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	朝や夜の難しい時間帯は極力避けて頂くように事前に伝え、可能な時間は不安なく出来るようにしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人宛のものは、直接利用者に渡るようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族等の都合のいい曜日や時間帯などを、事前に確認をとっている。また、定期的に本人の様子を報告しているので、その際にもお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	施設内で本人が金銭を管理する事はトラブルを考慮して難しいが、お出かけや買い物の際には可能な範囲で使えるようにしている。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	コロナ禍にて積極的には作れていないが、代わりに買い物をするのを伝えたり少しでも楽しみに出来るようにしている。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	現在はコロナ禍にて機会はなくなっているが、近所のコンビニ等は日頃からスタッフが会話を交わしたりしている。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	すべての金銭ではないが、少額でも管理が出来そうな方は、まず自分で管理していただいてから観察している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金を使う時には、その都度相談している。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に本人や家族と管理方法を話し合い、必要なものを購入する際は事前に報告・相談を行っている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々へのニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人の生活の様子、身体の状態を家族にも報告している。本人や家族の要望があれば、どうするのが一番良い方法か検討している。	◎		◎	利用者から食の要望が多く出され、コロナ禍のため外出に出かけることはできないものの、餃子やピザ、お好み焼きパーティーなどを取り入れ、楽しみが持てるような支援をしている。遠方や高齢の家族からは、受診時の同行支援の要望が出され、職員は対応している。また、美容師免許を持つ家族から、継続していた利用者のカットの要望が出され、玄関先で対応できるようになっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄關まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄關や建物周囲の工夫をしている。	○	玄關の花壇にはガーデニングを施している。日頃、利用者の方も植えた花を見て楽しまれている。	◎	○	○	事業所は幹線道路に面しており、事業所前には職員等の駐車場が完備されている。玄關先にはプランターが置かれ、プチトマトなどの野菜や花を育てるなど、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄關、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	特に居室は本人の使い慣れた物や思い入れがある物を設置して頂くようにしている。リビングでも本人が楽しめる物を持ってきて頂いている。	◎	○	○	共用空間にはテーブルやイスが置かれているほか、片隅にはオープンキッチンが配置されている。フロアには、利用者と一緒に作った風鈴には七夕の願いごとが書かれた短冊のほか、行事の写真などが飾られている。また、手先の器用な職員が趣味の折り紙で作成した彩り豊かな千羽鶴や箱の飾りも飾られ、利用者や来訪者の目を楽しませてくれている。毎日、職員が共用空間を清掃するほか、換気もされ、清潔保持をしている。また、広い廊下を活用して、歩行訓練をしている利用者もいる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日々の清掃は欠かさず行っている。本人から申し出があれば、すぐに対応している。					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	共有スペースでは季節に合わせた飾りつけをしている。日常で交わす会話の中で季節を感じられる言葉を織り交せている。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングでテーブルを囲んだり、ソファで隣に座ったりと、安心して過ごして頂ける空間にしている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	扉やカーテンで他の人の目に触れないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人が好きだったもの、大切にしていたものがないか本人や家族に聞いている。持ち込んで頂くものもあれば、購入する事も有る。	◎		○	居室には、ベッドやエアコン、棚などが備え付けられている。タンスやテレビなどを持ち込んでいるほか、家族の写真やカレンダーを飾り、居心地良い空間づくりをしている。車いすの利用者もおり、動線確保などのため、すっきりと片付けられている居室も多い。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	出来るだけ本人の力でできるように動線を確保したり、声掛けを行っている。危険や困難なことがあればフォローしている。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	本人の発言や困難があった状況を記録し、原因がないか職員同士で検討している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	本人の好きなものや役割として使用するものは視界に入るようにしている。					
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄關に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	日中は鍵をかけることはないようにしている。身体拘束にあたるものもあることなど、定期的に研修や委員会を行っている。	◎	◎	◎	事業所には身体拘束適正化委員会があり、施設内研修や話し合いなどで、職員は鍵をかけないケアを理解している。帰宅願望や外に出たい利用者もおり、職員は玄關やユニットの出入り口付近で声かけなどの対応をしている。また、夜間は防犯のため、20時から朝7時まで玄關等の施錠をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	居室に鍵は取り付けていない。玄關やユニット出入口は夜間に施錠を行っていること、理解頂いている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄關に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中、玄關に鍵はかけていない。少なくとも職員が一人はリビングにて利用者の様子を見守り、対応出来るようにしている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	往診や病院受診があればその都度、職員間で情報共有を行い把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日欠かさず、朝のバイタル測定を実施し記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	異常なサインがあれば、かかりつけ医に相談している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入所前、入所時に受療されているか確認している。出来るだけかかりつけ医を継続できるようにしている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族さんと協力しながら、本人にとってより良い方法を検討している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	コロナ禍につき、現状はほとんど施設職員が同行して受診されている。伝えるべき内容は受診後に本人の状態や医師の意見を家族に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	他の医療機関にかかっている事や、日頃の本人の暮らし方やこだわり等を伝えるようにしている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	コロナ禍につき、面会は困難な状況だが電話で状況の確認や退院までの方針などを相談している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	往診や病院受診の際は、施設職員も一緒に参加させてもらい医療機関との関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	現状では訪問看護の利用はないが、本人の変化については記録し、職場の看護師、医療機関の看護職へ伝え相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	医療機関の協力が得られる範囲で、相談できるようにしている。職場の看護師には24時間体制で相談できるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	本人の状態と異常がある場合は職場の看護師や、必要であると判断すれば医療機関へ相談し、早期に対応している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤情報をファイリングし、共有・申し送りをしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	医師の指示はその都度、申し送りをしている。飲み忘れや誤薬がないように、二重・三重にチェックを行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	特に服薬内容に変更がある時は、注意深く観察している。必要と判断すれば、医師へ問い合わせ・次回診察時に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	服薬との関係性について、介護職員は判断できないので様子を記録・情報共有を行っている。				

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時にも行っている。状況が変化するたびに意向が変わる事もあるので、その都度確認や話し合いを行っている。	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。事業所として、看取り加算は取っていないものの、利用者や家族の希望に応じて、可能な限り対応をしている。指針には、終末期などの段階に応じた対応や職種毎の役割も記載されている。事業所として、看取り介護の経験も多く、看護師の配置があるほか、協力医と24時間体制のオンコールができ、利用者や家族、職員には安心感がある。また、長年の連携で協力医と相談しやすい関係も構築されている。さらに、重度化や急変時には、病院や施設へ転院する利用者も多い。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者と話し合い、方針を共有している。	○	職員同士では日々の申し送りや、定期的なミーティングで共有している。かかりつけ医にも本人・家族の意向も含め相談している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	出来ること、出来ないことを職員の意見を聞いて判断している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	医療機関の協力も含め、どこまで出来るか出来ないか説明を行っている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療機関と一緒に十分な話し合いを行い、本人にとって何が良い方法なのか検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いをしっかりと聞き、必要に感じたことは助言を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症について定期的に研修を行っている。感染予防・特徴・対応策	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	日常的には行っていないが、流行期には研修・シュミレーションを行っている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	身近な医療機関の情報ははじめ、保健所・行政のホームページや記事を確認している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関や地域の情報を元に、特に職員への注意喚起を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	日頃より、徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人との関わりを大切に、可能な限り家族の協力も仰いでいる。				コロナ禍以前は、事業所の夏まつりやクリスマス会など、社協に紹介してもらったボランティアや家族に参加協力してもらい、行事を開催することができていた。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けているものの、LINEのテレビ電話を活用した家族とのオンライン面会のほか、透明のビニールカーテンを活用した玄関入り口で、対面での短時間の面会にも対応する工夫もしている。また、事業所から利用者の日々の様子の写真を添付した手紙を送付したり、掲載の許可を得られた場合にはブログで日々の様子の情報を発信したりしている。また、家族の来訪する機会が減少していることもあり、事業所では介護計画の更新時の家族の確認をチャンスと捉え、意見や要望を聞くようにしている。運営上の事柄など、利用者家族のアンケート結果から伝わっていないことが窺えるため、今後は手紙の送付時に事務連絡を添えたり、コロナ禍の収束後には家族の来訪時に報告をしたりするなど、家族の理解が得られるような取組みを期待したい。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍につき面会にも制限はあるが、状況が変わるたびに連絡を行っている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナ禍につき、ホームでのイベントへの参加は控えて頂いている。外出や用事で外出する際は、可能であれば関わって頂いている。			○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月、本人の様子を手紙と電話で伝えている。行事の写真や本人の表情が豊かな写真を手紙や、メールで送っている。		◎			○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族へ本人の情報を伝える時には、不安なことや以前の様子と比べて違ったことはないか等を聞いている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	支援がスムーズに行えた時の状況や本人が喜ばれたことなど、職員だから気づけたことを報告をしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員の事はその都度報告は行っていないが、行事や利用者に関わることであれば報告している。			×		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	コロナ禍につき、現在は提供できていない。制限がないときは、行事への参加を募っている。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	本人の状況を説明し、家族と意見をすり合わせて検討している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	定期的な連絡・必要な時はその都度連絡を行っている。来訪時には職員とも会話をする機会を作っている。					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	十分に説明を行っている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居の際は、十分に話し合い・説明を行っている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時をはじめ、料金改定時には必ず文書で説明を行っている。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の方に会議に参加して頂き事業所の目的や役割等を説明して理解して頂いている		◎		コロナ禍以前は、町内会の夏祭りに参加したり、市民大清掃などに参加協力したりすることができていた。事業所周辺の散歩時には、地域住民に挨拶をしている。事業所は幹線道路に面し、周辺には住宅が少ないこともあり、地域住民が来訪する機会はほとんどない。新たに町内会長を通じて、運営推進会議の参加メンバーに協力的な民生委員を紹介があり、地域の情報提供や行事参加へ呼びかけてもらうなど、今までは地域とのつながりが少なかったものの、事業所では地域とのつながりが深まるよう取り組んでいる。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナ禍につき制限はあるが、挨拶を交わしたり町内会の行事・活動に出来る限り参加するようにしている。		○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	利用者を見守ったり支援して頂いている地域の方は少しでも増えていると思っている					
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	年賀状に必ず記載している 気軽に声掛けする様になっている					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	コロナ禍につき、積極的には行っていないが顔を合わせた時はあいさつや会話をしている。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	コロナ禍で外出行事が無くなりドライブのみになっているが 外出が許される様になったら声掛けしてみようと思っている					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近隣の地域資源を探してみようと思っている 盆踊り・文化祭・近所のコンビニ等に行き利用者様の顔を覚えて頂く様にしたい					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	コロナ禍につき、積極的には行っていないが買い物へ出かけて顔を合わせるなど、存在をアピールしている。					
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回、開催前に通知・連絡を行い参加を募っている。現在はコロナ禍につき、文書開催としている。		○	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は文書開催になっているものの、事前の開催案内時に参加メンバーに「質問連絡アンケート」を送付し、市担当者や町内会長などから多くの意見を聞くことができています。会議には、新たに地域の民生委員が参加するようになり、地域行事の情報提供をしてもらったり、地域とのつながりなども働きかけたりするなどつながりができそうな矢先に、コロナ禍で集合形式での会議開催がなくなったことを管理者等は残念に思っています。また、コロナ禍以前の会議は、フロアで開催していたこともあり、数名の利用者に資料を配布して参加してもらうこともできていた。さらに、会議を夕方や日曜日など、参加メンバーが参加しやすい日や時間帯の試行錯誤をしたり、新たな利用者家族には会議への参加を呼びかけたりするなど、少しでも多くの参加が得られるよう工夫している。加えて、会議の中では、転倒事故や活動状況などの報告をするほか、感染症対策や薬の管理などのテーマを議題に取り上げて、一緒に学んだり、意見交換をしたりすることができる工夫もしている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	取り組み状況、取り組みに対しての評価など報告し、助言も頂くようにしている。					
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	会議で出た提案や意見を参考にサービスに取り入れたり、その評価も報告している。		◎	○		
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	出来る限り、メンバーの都合に考慮した日程に開催するようにしている。		◎			
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関の見やすい所に置いている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	職員は常に利用者の自立支援を目標として日々仕事に励んでいる。笑顔で利用者様に接すると笑顔が返ってくるとう理解してこれ全て理念に基づいている	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ケアプランの意向等伺う時、他家族と話出来る事があれば理念を分かりやすく伝えている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修も受けられるような制度があり個々の職員から申し出があれば受けれる。資格取得にも相談にのり制度を利用したり新人研修の計画している。職員に必要な研修を選んでいる事もある	/	/	/	毎月実施しているユニット会議を活用して施設内研修を実施し、職員のスキルアップに努めている。現在のコロナ禍において、資料を職員に確認してもらったり、外部研修に参加したりする機会は減っているものの、事業所として法人本部に起案書を上げると、外部研修の参加費などの助成を受けることもできるようになっている。法人として複数の事業所などを経営しているため、代表者までの来訪はないものの、定期的に法人の部長の来訪があり、話し合いをするほか、月2回法人の管理者会議があり、意見交換をしている。また、法人・事業所として、食事会の経費助成などの福利厚生を充実させたり、職員の希望休のほか、定められた有給休暇の取得を進めたりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、パート職員が働きやすいよう勤務の日数や時間帯の要望にも対応している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎日の業務の中で職員と話し合いや指導してスキルアップにつなげている	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年2回の勤務評価を実地して評価が高い職員には賞与等に反映させている。長年勤務している職員には功労金が出る退職金制度があり福利厚生に力を入れている	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域包括の事業者連絡会、研修等に参加して同業者との交流に努めている	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年末には事業所負担で食事会の費用が出て職員同士で話し合える機会等を設けている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待については、施設内研修でもたびたび議題として学び理解に努めている。	/	/	/	事業所では、年4回身体拘束適正化委員会を実施している。委員会には、管理者とホーム長、ユニットリーダー等が参加し、虐待防止や不適切なケアなどの話し合いをしている。毎月ユニット会議を活用して実施している施設内研修のテーマにも年2回取り上げ、職員は学ぶことができている。不適切なケアが見られた場合には、管理者等が後で注意喚起するほか、職員同士で見つけた場合には、対応している職員を交代している。また、ホーム長等が2階のユニットにも定期的に顔を出して職員に声をかけ、職員がストレスや悩みを抱えていそうな場合には話を聞き、人がいないような場所で大声を出して少しでもストレス解消するよう促したり、休める状況であれば有給休暇などの取得を進めたりする対応をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	会議に参加したり休憩中の職員と会話する機会を作っている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修等で十分話し合っている	/	/	○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の様子やケアの変化に注意を払っている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	定期的に身体拘束防止の指針を説明し、施設内の研修で理解を深めている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束適正化委員会を定期的に行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	現在は拘束を求める要望は出ていない。申し出があれば、身体拘束についての説明や話し合いをする姿勢をとっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	院内研修等とする様になっている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	制度利用の相談があれば情報提供している。問題がありそうな家族には積極的に声を掛ける様になっている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターには空室情報やパンフレット等を持参して気軽に相談出来るような連携体制を築いている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	マニュアルを作成し、共有している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署の協力が得られる時は、応急手当・救命などの講習を受けている。施設内でも定期的な研修を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの意義、必要性を職員が理解し作成できるよう努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	介護記録や利用者の変化や様子を職員同士で共有し、リスクについてその都度検討している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成し、共有している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	迅速な対応を心掛けている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	適宜対応を行っている。より良いサービスの提供を行えるように検討・話し合いを行い、信頼関係を築いていきたいと考えている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議にも参加して頂いたり、日頃の会話の中で思いを聞いている。			○	日々の会話の中で、職員は利用者から意見を聞き、「○○が食べたい」などの意見が出され、献立に反映したり、餃子パーティーなどを実施したりするなどの対応をしている。家族からは電話連絡時に意見を聞くほか、LINEなどのSNSを活用して、意見交換をする場合もある。また、管理者やユニットリーダー等はユニット会議などを通じて職員から意見を聞いており、法人の管理者会議の中で意見を伝えたり、起案書を書いて法人本部に上げて、意見が反映されたりすることもある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	コロナ禍につき、会議への参加は控えて頂いているので、個別に思いを聞いている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項に記載してある相談内容により必要なところを紹介している。必要とあれば窓口の紹介もしている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	会議の場に出席しており職員全員の要望等を報告する事もある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	定期的なミーティングに参加し、職員の提案や意見を聞いている。また、利用者にとってより良い方法を検討している。			◎	

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価を行っている				外部評価の自己評価は、職員の意見を参考にしながら、各ユニットのリーダーを中心に作成している。サービスの評価結果は運営推進会議の中で報告するほか、ユニット会議などを活用して、職員にも周知している。また、事業所では目標達成計画を職員間で話し合っ作成し、取組み状況も確認している。現在のコロナ禍において、取組み状況の確認などのモニター協力までには至っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価する事で明らかになっている課題や現状は研修の参考や次の目標になっている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	地域・家族の評価は特に重要視しており事業所全体で取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	文章や口頭にて報告している	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営会議にて目標達成計画を報告している 去年は文書開催が多いので手紙にて報告している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害時のマニュアルは作成しており、定期的に災害の状況を変えて訓練を行っている。				年2回、消防署の協力を得ながら、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。事業所は、重信川流域の「まつやま洪水ハザードマップ」の浸水の可能性のある地域に指定されており、「洪水時の避難確保計画」を作成している。水害を想定した訓練では、実際に利用者を毛布にくるんで、2階へ避難する体験もしている。また、前回の外部評価結果から、目標達成計画に「事業所の防災・災害計画の取り組みや対応について、家族様に知ってほしい」という目標を掲げ、事業所内のエントランスに前回参加した地域防災訓練に参加した状況の写真のほか、実際の避難経路順を写真を交えて表示するなどの工夫をしたものの、現在のコロナ禍において面会制限もあり、家族の来訪もほとんどなく、周知までには至っていない。今後、コロナ禍の収束後には、事業所の避難訓練に家族の参加を呼びかけて、一緒に訓練したり、家族が参加できる行事の時に、訓練報告や話し合いをしたりするなど、事業所の災害発生時の安全対策について、少しずつ家族に理解が得られることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中や夜間、人員の増減を想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	訓練と共に、定期的に行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署立ち合いの訓練は行っているが、近隣の合同訓練は出来ない。校区内で防災訓練等あれば参加している	x	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	自治体・町内会・消防などの情報を参考に、避難場所や避難経路を確認している				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	運営推進会議を利用して、認知症ケアについての資料を提供したりどのような活動を行ったか報告している。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	発信はしていないが、問い合わせがあれば相談を受けている。		○	○	事業所では入居相談のほか、地域住民から相談のあった場合は対応している。運営推進会議を活用して、認知症などをテーマとして議題に取り上げ、地域から参加者にも啓発している。事業所周辺を一人で歩いている高齢者がいた場合には、職員が声をかけをして様子を聞くようにしている。また、事業所では、市介護保険サービス事業所連絡会に参加したり、地域包括支援センターの研修に参加協力したりしている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	当事業所を拠点にはしていないが、集まりの場があれば活用したいと考えている。コロナ禍につき、現在は出来ない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望があれば受け入れる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	運営推進会議も活用し、地域イベントなどの情報を得ている。			○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 3 年 8 月 6 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3870103862
事業所名	グループホームすみれの里
(ユニット名)	しばもち
記入者(管理者)	
氏名	花山朋美
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 17 日

<p>【事業所理念】</p> <p>当たり前の生活を基礎として、生活のしにくさや、生きぬくさに対して笑顔と思いやりをもって支援を行い、穏やかで安心して生活出来るようにお手伝いする</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1. 居室に入る際には声掛けやノックを行い必ず本人の許可を得てから入室するように常に意識する ○居室に本人が不在の時でも本人の傍に行き許可を得る様にしている (結果)職員同士で忘れがちになっているがその都度声掛けするようにしている 2. 事業所の防災・災害計画の取り組みや対応について家族様に知ってほしい ○エントランスに地域の防災訓練に参加した写真や避難経路を展示している (結果)展示してまもなくコロナの感染症が流行して家族の面会が少なくなったのでみられていない 医療従事者の方が「あれでご飯炊けるの」と興味を持って頂いた事がある</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>市中心部から少し離れた郊外の幹線道路沿いに事業所は位置し、周辺には店舗や会社などが多く、住宅は少ない。事業所として町内会に加入し、地域の清掃などに参加協力したり、散歩時に挨拶をしたりしているものの、地域とのつながりは少なく、新たに町内会長から運営推進会議のメンバーに民生委員を紹介してもらったことをきっかけに、地域の文化祭などの行事案内や交流を呼びかけてもらうようになり、深めるきっかけにしようとしていた矢先に、昨年から続くコロナ禍となっている。コロナ禍の収束後には、ホーム長等は地域との交流が少しずつ深められることを検討している。また、ユニット会議などを活用して、毎月施設内研修を実施したり、外部研修への参加も進めたりするなど、職員のスキルアップにも努めている。さらに、法人・事業所として、様々な福利厚生も整えられ、希望休や定められた有給休暇の取得を促したり、ホーム長等は話しやすく風通しが良くなるよう努めたりするなど、働きやすい職場づくりに努めていることもあり、長年働いている職員も多い。</p>
---	--	---

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	詳しく聞けるよう家族と話し把握に努めている	◎	/	○	入居時に、計画作成担当者やユニットリーダー等が利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞いている。また、日々の生活の中で、職員は利用者から思いなどを聞き、把握できるよう努めている。把握した内容は、アセスメント情報をチェックするほか、必要事項は記載している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	以前の暮らしや生活歴等、本人本位に考え、職員間で話し合う様にしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入所時にも詳しくお聞きするが、ホームで生活して行きながら、家族と話し合いを重ね思いについて話している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人ファイルを作成し、手に取りやす所に置いている。新しく知り得た事は必ず記入している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の思いを大切に、見落とさない様にしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人の大切にしていた事等、入所時に家族、本人、ケアマネに聞いている。生活歴や環境、サービスの経過等を把握出来る様に努めている	/	/	○	入居前に、計画作成担当者やユニットリーダー等が自宅などを訪問し、利用者や家族から生活歴や現状などを聞いている。また、計画作成担当者等が、以前利用していた介護支援専門員から情報を聞いたり、病院の退院前のカンファレンスに参加したりすることもある。また、意思疎通が難しい利用者には、職員が日々の様子を観察したり、生活の中で違う表情を見逃さないようにしたりするなど、少しでも情報が把握できるよう努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	個々の心身の状態や、生活リズムを把握し、小さな変化も見逃さない様に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の状態を観察し介護記録に残し把握できるよう努めている	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	原因になっている事等知り得た情報は記録し把握に努めている	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	個々の生活リズムを把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の寄り添いの中で求めている物を把握し検討している	/	/	○	毎月1回、ユニット会議を実施するほか、必要に応じて、昼食休憩時などを活用してショートミーティングを実施している。現在のコロナ禍において、家族や外部からの関係者の担当者会議への参加はできていないものの、医師の往診時に指示を仰ぐほか、家族から電話で意見を聞き、意見をもとにして職員間で話し合いするなど、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	職員間で話し合い検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	会議や日々の業務の中で話し合い明らかにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	出来るだけ反映された内容になっている				計画作成担当者が、利用者や家族、関係者の意見を反映し、職員から出された意見やアイデアを取り入れながら、介護計画を作成している。また、「おまかせします」「いいように」などと言われる家族も多く、事業所では、いくつかの案を家族に提案したり、「何でもいいので教えてください」などと声をかけて、意見をもらえるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	利用者、家族と話し合いながらケアのあり方について作成している	◎			
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	重度の方に関しては、家族の意見を重視してその人らしい生活が送れるない様になっている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	主な支えは家族が主となっているが、地域の人の力も借りる努力をしている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画は誰でも見れる場所に置き、職員間で共有できる様になっている				○ ユニット毎に、書類や申し送りノートなどを保管している机の下に介護計画を置き、サービス内容などを職員がいつでも確認できるようにしている。サービスの実施記録は、介護ケアプラン実施表をチェックするほか、介護記録にも夜間は赤色、バイタルなどは青色と記載を使い分けるなど、職員が確認する時に分かりやすいようにしている。また、利用者の変化のない場合も含めて、月1回モニタリングを実施し、評価欄にホーム長や管理者等がコメントを記載している。さらに、利用者の様子や発言した「家に帰りたい」「日切焼きが食べたい」などの言葉も申し送りノートなどに記録を残すことができている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケアチェック表にてチェックを行い、ユニット会議にて話し合い確認し、日々の支援につなげている				
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	介護記録に残したり、申し送りノートに書いたりしている				
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護記録に記録している				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	行っている				○ 介護計画は、6か月に1回見直しをしている。毎月モニタリングを実施し、利用者の状態を確認できている。事業所では、定期的な計画の見直し以外の計画変更をすることは少なく、入退院時にも1か月間は経過観察をして、必要に応じて見直しをしている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	行っている				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化が生じた場合はすぐに新しい計画を作成している				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的にユニット会議、緊急案件時は休憩時間、ショートミーティング時に話し合いを行っている				○ 月1回、ユニット会議を実施し、職員間で話し合いをしている。職員から業務改善や要望なども多く出され、「声の大きさ・トーンに気をつける」「食器などの備品を丁寧に扱う」などの意見も出されている。緊急案件のある場合には休憩時間などを活用してショートミーティングを開催し、出勤職員で話し合いをしている。また、ユニット会議などに参加できなかった職員には、会議録を回覧し、サイン又は押印をする仕組みとなっている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	意見の出ない職員には問いかけたりして、意見が聞ける様工夫している				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	開催日はユニット長が決めているが、職員の意見も聞いている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしきみをつくっている。	○	会議の記録を後日読んでもらっている。足りないところは日々の介護の中でこう変わったよ等伝える様にしている				
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしきみをつくっている。	○	申し送りノートを活用し情報共有を行っている。閲覧したらサインも行っている				○ 毎朝、申し送りを実施しているほか、申し送りノートなどを活用し、職員の確認後にはサインや名前を書き、確実な情報伝達につなげている。時にはサインがなく見ていない職員もあり、管理者等は気づきやすい場所にメモを貼ったり、声かけをしたりしている。また、個人記録などの重要事項は赤色で記載したり、分かりやすいようメモを挟んだりしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノートへの記入はもちろん知り得た大切な情報は、個人記録のファイルにメモ紙を貼ったり、色ペンを使用したりして、重要事項が分かりやすい様にしている。業務連絡については申し送りノートやカレンダーを利用している	◎			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の希望がある場合には出来る限り叶える様にしている	/	/	/	着替えやおやつなど、職員が利用者へ「どれにしますか」などと声をかけ、自己決定できるよう支援している。重度な利用者にも職員が声をかけたり、アドバイスを伝えたりしているものの、利用者から「なんで」と聞かれたり、返事がないこともあるが、可能な限り、しぐさなどを見ながら選択してもらえるよう努めている。また、家族の面会時や自分の写真を見た時などに利用者の笑顔が見られるほか、うなぎなどの好きな食べ物を食べる時にはうれしそうなお顔も見ることが出来る。さらに、重度や不穏の利用者には、玄関先で外気に触れて、花を見た時には落ちつきを取り戻す場合もあり、職員は試行錯誤しながら対応をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	思いを出しやすい雰囲気作りにも努めている。困難な場合は助言をして自己決定出来る様に支援している	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	個々の分かる力に応じて支援している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の気分や体調等に配慮しながら、生活のペースを乱したり押し付けまいよう心がけている	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	楽しい雰囲気作りが出来る様心がけている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	表情の変化、しぐさなど見逃さず、本人の意向にそった暮らしが出来る様対応を心がけている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊敬」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者を尊敬して誇りやプライバシーに配慮した声かけを心がけている。忙しかったり、何度対応しても伝わらない時にはきつい声かけになってしまっている時もある。接遇の研修積極的に行っている	◎	○	○	月1回の施設内研修の中で、接遇をテーマに取り上げて、職員は人権や尊敬などを学び、理解している。自分で排泄ができる利用者がトイレの扉を閉めずに用を足すこともあり、周りの利用者等の目を気にして、カーテンをつける工夫もしている。耳の聞こえにくい利用者へ、職員の声かけが大きくなることもあり、気づいた場合には、職員が交代して声かけをするなどの対応をしている。また、前回の外部評価の結果から、「居室の入室時の声かけやノックのほか、必ず利用者本人の許可を得てから入室する」などの項目を目標達成計画に掲げ、職員は意識して居室への入室時には「入ります」などの声をかけているほか、気になる場合には職員同士で注意し合えるように改善されている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	声掛けには気を使い、トイレの声掛け等耳元で伝える様にしている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	入浴時はバスタオルを使用したり、プライバシーを尊重して介助している。戸は必ず開けている。トイレの際はカーテン、ドアを開けている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時には必ずノックをし、返事を頂いてから入室している。不在時も入室する事を声掛けし、了承を得ている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	理解し厳守している。外部からの問い合わせに関しても、許可を得ている物には対応し、家族の許可が無い物に関しては一切応じていない	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	色々な話を話したり、教えて頂いたりしている。利用者の巧みな言葉使いや知識、所作等勉強になることが沢山ある	/	/	/	洗濯物たたみやお盆拭きなど、利用者へ手伝わってもらった場合には、職員から「ありがとう、助かります」などの感謝の意を伝えている。職員が定期的にシーツ交換をしていることが当たり前になっていたことを、利用者から言われて職員が気づかされることもあり、事前に利用者へ確認してから交換するよう改善されている。また、認知症の進行などで、すぐに怒る利用者もいることなどからトラブルになることも多い。さらに、「そこだけ、こっち見るな」などの口げんかをなされることもあり、職員が間に入ったり、どちらかの利用者が居室に移動した後で声かけをしたりするなどの対応もしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理解している。誰か他の利用者が居る事で安心して過ごされている方もいる	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	利用者同士のトラブルを避けるために、席替えをしたりしている。孤立する事がない様にレクリエーション等を通じ関わりを持つ機会を作っている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者へ不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士の意見をしっかりと聞き、解消に努めている。間に入り落ち着いて頂く様にしている	/	/	/	

愛媛県グループホームすみの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時に家族に時間をかけてお聞きし、情報収集している				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	利用者から得られる場合はしっかりお聞きしている。答える事の出来ない利用者には家族から詳細をお聞きしている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナ禍にて行っていないが、利用者の希望がある場合は叶える様に支援している。電話や手紙というふうに関係が途切れない様に支援している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	気軽に訪ねて来られる環境を整えている。面会時にはお茶をお出し、心地よく過ごせるよう、工夫している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	あまり遠くには行けないが、希望がある場所には行ける様に支援している	○	△	○	事業所では、季節に応じてコスモスなどの花見やいちご狩りに行ったり、買い物や回転寿司などに出かけられるよう支援している。現在のコロナ禍において、外出制限は設けられているものの、利用者と一緒に事業所周辺を散歩したり、ドライブに出かけたりして、利用者が気分転換できるよう努めている。重度な利用者も、玄関先に置いている花の成長を見に行ったり、体調を見ながら日光浴や外気浴ができるよう支援している。また、外出できない代わりに、餃子やお好み焼きパーティーをしたり、かき氷や焼き鳥、とうもろこし、お寿司を提供したりするなど、事業所内で夏まつりの開催も予定している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	今後大きな外出があれば協力の要請したい				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	外気浴や日光浴等体調をみながら行っている				
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	希望に沿って行きたい場所へ行ける様に支援している				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	認知症の研修を定期的に行っていて、職員は理解できている。個々の利用者の状態の変化も見逃さない様にしている				月1回実施する施設内研修で、職員は認知症のことを正しく理解している。利用者は、洗濯物たたみや玉ねぎの皮むきなど、できることを手伝っている。洗濯物をぐちゃぐちゃにたたむ利用者もいるものの、職員から手伝いのアドバイスをしたり、後でそっとたたみ直したりしている。また、事業所では、手すりを活用した屈伸運動や足上げ運動、手のグリップ運動などの毎日のリハビリ体操を取り入れ、利用者の心身機能の維持に努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	利用者の身体能力に合わせたケアを行っている。維持向上が図れる様に出来る事はなるべく手を出さずに見守りを行っている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守りを行いなるべく自分で行って頂いている	◎		◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	生活歴や日々の行、話の中から楽しみや役割を把握している				洗濯物たたみやお盆拭き、花の水やりなど、利用者のできる役割や出番づくりをしている。重度化や認知症などの進行により、できることは減ってきているものの、ぐちゃぐちゃな状態ながらも日課のように洗濯物をたたんでもらったり、正月には名前だけでも利用者を書いてもらい年賀状を送付したりするなど、家族にも喜ばれている。また、利用者には風鈴の短冊に願いごとを書いてもらったり、コロナ禍以前には地域の盆踊り大会に出かけたりするなど、事業所では利用者には楽しみが持てるような支援にも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	お盆拭き、花の水やり、利用者のレベルに合わせ役割を持つことで張りのある生活が出来る様に支援している	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域の中でどんな役割 楽しみが持てる様になるか検討している				

愛媛県グループホームすみの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしやれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしやれについて把握している。	○	その人らしい身だしなみが取れる様、個々のおしやれについて把握に努めている				自分で髭剃りをしたり、服を選んで着替えたりする利用者もいる。衣服などの汚れが見られた場合には、職員が利用者にさりげない声かけをしながら居室に移動してもらい、着替えてもらうこともある。重度な利用者にも、職員が「どの服を着ますか」などと声かけをして選んでもらったり、表情などを汲み取って、好みの明るいキャラクターものの服を着てもらったりするなどの支援ができています。洋服が少ない利用者もあり、頻繁に着て洗濯することで、くたびれたような服となった場合には、家族に持ってきてもらったり、購入を勧めたりすることもできている。また、ホーム長等は、「利用者の気分が高揚できるようにマニキュアを塗るなどのおしやれの支援を取り入れること」を考えているが、周りの利用者の不穏なども考え、控えざるを得ない状況となっている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	髪型は本人の希望を伝え、切っている。服などは自分で選んで頂いている				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族の意向をお聞きしている。入所前の生活状況等をお聞きし、本人の以降に添えるよう支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	どんな服が着たいか本人に選んで頂き支援している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたり、髪をきれいにしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	服が汚れている場合には速やかに更衣して頂いている。食べこぼしなどはさりげなく片付けを行っている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	○	希望があれば望む所に行っている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしい服が着れるよう支援している				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食べる事はとても大切な事と職員は理解している				職員が利用者から好みのメニューなどの意見を取り入れ、1週間分の献立を作成している。食材は業者に発注し、それぞれのユニットで職員が調理をしている。職員は献立づくりに給食のメニューを参考にしたり、YouTubeの映像を見て参考にしながら調理したりすることもある。利用者の認知症や重度化が進行し、手伝いができる利用者はほとんどいなくなったが、ユニットで唯一の利用者が手伝ってくれるものの、やらされ感を持たないように、職員が「手がふさがっているので手伝って」などの声かけを工夫している。利用者の状態に合わせて、ごはんを柔らかめに炊いたり、ミキサー食にしたりする対応をしている。嫌いなものがある場合には、別の食材を用意している。フロアには調理の音や匂いも漂い、調理中にも献立などの話しをすることもできているものの、利用者から匂いで、「焦げている」と言われたこともある。また、職員から「利用者と一緒に食べていると、休憩時間が取れない」との意見が出され、事業所では働き方改革などにも対応し、現在は利用者と一緒に食事を摂っていない。さらに、コロナ禍以前にはよく外出にも出かけることができていたが、現在は外出制限が設けられているものの、事業所では餃子やお好み焼きパーティーなどを取り入れたり、ホットケーキやおはぎづくりをしたり、土用の丑の日にはウナギを提供するなど、利用者が楽しめるような工夫もしている。誕生日には、15cmぐらいのバケツプリンを作り、切り分けて食べたこともある。献立は栄養士からアドバイスをもらえることはできていないものの、医師から「炭水化物を減らして、体重を維持するように」などの助言をもらっているほか、職員間で話し合いもしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	◎	現在は調理できる利用者が居ないので献立等一緒に考えてもらっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	買い物は業者発注なので行っていない。盛り付け、後片づけについては、利用者の能力に応じて、出来る事は手伝って頂いている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	現在アレルギーのある利用者はいない。利用者の嗜好については職員同士で把握共有している				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	季節の食べ物は積極的に献立に取り入れる様にしている。季節の行事も大切にしている。土用の丑の日には鰻をお出しするなど、また苦手なメニューの時は代替品などお出ししている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いりどりや器の工夫等)	○	お皿や茶碗等陶器の物を使用している。ミキサー食の方にも同じ物を使用し、盛り付けも工夫している。体調に合わせておかゆをお出しするなど対応している				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自宅で使用していた、使い慣れた物を持ってきて頂き、使っている			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食べこぼしなどはさりげなく片付け、飲み込みや、食べるスピードにも気を配っている			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	台所が居室に近い事もあり、料理の匂いなど廊下に出れば嗅ぐことができる。また、今日の献立等会話に盛り込みながら作っている		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	体重増加気味の方にはカロリーを考え、量を減らしたり、バランスを考えている。水分など一度に沢山摂取出来ない方には、時間を置いて対応している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事摂取量が少ない方に対しては、形態や盛り付けを工夫している。お茶だけでなく、ジュースや口当たりのよい物、プリンやアイスクリーム等も摂取して頂いている				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士は居ないが、献立のバランス、偏りがないか職員で相談している			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理器具は使用する前には必ず消毒を行っている。肉や魚を調理する時にはまな板を別にしたリ、調理する順番を考えている。エンボス手袋も使用している				

愛媛県グループホームすみの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	十分に理解し口腔ケアを行っている				事業所では、定期的に口腔ケアの研修を実施しているほか、歯科衛生士の訪問時には、唾液が出やすいようなマッサージや口腔ケアのやり方などのアドバイスももらっている。毎食後に、利用者は洗面台で口腔ケアを実施し、職員はできないことを介助している。月1回、歯科医の往診もあり、定期的に利用者の口腔内の状況を把握することができる。また、義歯は洗浄液に浸けるなど、清潔保持にも努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	把握できている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	ケアについて解らない事があれば、すぐに相談できる体制になっている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎食後声掛けを行い、適切に行えるように支援している				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後声掛けを行い、出来ない方は一緒に行っている。出来る事には手を出さず見守りながら支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常があればすぐに歯科医に相談して頂いている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。なるべく使用しない様子がなっているが、パット、紙パンツに頼っている現状がある				職員が声かけや誘導をしながら、利用者ができるだけトイレで排泄ができるよう支援している。排泄管理表や介護記録に記録し、職員は利用者の排泄状況を把握している。事業所には、リハビリパンツや紙パンツを履いている利用者も多く、布パンツに変更することを進めているものの、利用者が失敗などを恐れ、変更となるまでには至っていない。また、便秘などのため、服薬している利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘で起こりうる不穏や、腸にもたらず悪影響など理解できている				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	それぞれしたり等の行動はもちろん、排泄管理表を使用し、排泄パターンを把握できる様に務めている				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時の状態にあった支援を行っている。	○	それぞれの排尿パターンを理解し、その人に合ったパットやオムツを使用している。今これは必要か?と、話し合い見直しもしている	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	どうしてこうなったのか原因要因を探り、改善を行ったり、こういう風にすればいいのではないかと検討を行っている				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	小さなサインも見逃さないように気を配り、失敗しない様に早めに声掛け等を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	家族、本人と話し合い決定している。自己決定できない方は家族と話し合い現状等詳しく説明を行い種類等を決めている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	昼は紙パンツ、夜はオムツ等、その人に合わせた用途で使い分けをしている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	便秘の方には水分を多く摂ってもらえるよう勧めたり、ヨーグルトや牛乳を飲んで頂いたり、自然に排泄出来る様に工夫している				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者の希望になるべく添える様にはしているが、対応出来ない面もある(入浴日等)お湯の温度などは本人の好みの温度で対応している	◎		○	利用者は、週2〜3回入浴することができる。入浴を嫌う利用者もおり、無理強いすることもなく、日や時間を変更したり、声かけや介助をする職員を交代したりするなど、入浴できるよう工夫している。事業所には特殊浴槽があり、利用者の状態に合わせて個別浴槽と使い分け、安心安全な入浴を支援している。事業所では、事前に入浴できる日を決め、午前と午後時間帯に入浴できるようにしている。また、湯船に浸かる時間や温度などにも対応したり、沐浴剤を入れたりするなど、利用者がゆったりと入浴できるよう努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	湯船につかられている時には見守りを行い、ゆっくりと入浴出来る様に支援している				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来る事はして頂き、出来ない事のみ手伝いをしている				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒まれる時には、時間をずらしたり、日にちを変えたりし、無理強いすることのない様に工夫している				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎日バイタル測定を行っており、血圧の高い方、発熱されている方などの入浴は中止している				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	把握出来ている、変化があれば必ず記録に記入している	/	/	/	事業所には、数名眠剤などを使用している利用者もいる。精神面や認知症の進行で、夜間も含めてほとんど眠れず、すぐに怒る利用者や、日中に寝て夕方から目を輝かせるような利用者もおり、体調面も考えて、医師と相談しながら対応している。日中の活動量や会話を増やすなど、昼になるべく起きて過ごしてもらい、職員は夜間に利用者が安眠できるよう努めている。また、夜早く寝付いて朝早く起きる利用者もおり、早朝4時からテレビの時代劇を見ている利用者もいる。さらに、センサーマットなどを活用している利用者もおり、職員は極力他の利用者にも影響が及ばないような配慮もしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼間なるべく起きていて頂いたり、レクリエーションに参加してもらったり、リズムが戻る様に取り組んでいる。夜眠れない方は職員と一緒にリビングで過ごして貰ったりしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠前薬を服用している利用者は少ない。医師とも相談し増やすのではなく減らす事が出来るように支援している。安易に眠前薬に頼るのではなく、まずは出来る事を行っている	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者に合わせて、休む時間を作っている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	LINE通話を使い動画にて話をしたり、日常の様子を送ったりしている	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	季節ごとのあいさつの手紙など(年賀状、暑中見舞)レクリエーション形式にて参加して頂いている、その人に合わせた介助を行い支援している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があればいつでも電話が出来る世に対応している	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙には返信したり、電話を掛けたりと音信が取れる様にしている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	今日は珍しい雲が出ていたよと、写真ををLINEで送って下さる家族もいる	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	充分に理解している	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	現在はコロナ禍の影響で出来ていないが、外出や、買い物の機会を設けている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	近くのお店には説明を行い協力を頂いている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現金は主にホームで管理しているが、家族と相談して財布を持たれている方もいる	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	何か買い物をする時には家族、本人の了承を得ている	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	出納表、領収証は毎月郵送している、金銭の管理については契約書に定めている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	個々の希望に沿えるよう対応している	◎	◎	利用者から食の要望が多く出され、コロナ禍のため外出に出かけることはできないものの、餃子やピザ、お好み焼きパーティーなどを取り入れ、楽しみが持てるような支援をしている。遠方や高齢の家族からは、受診時の同行支援の要望が出され、職員は対応している。また、美容師免許を持つ家族から、継続していた利用者のカットの要望が出され、玄関先で対応できるようになっている。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関には親しみやすい花や野菜を植え、利用者と玄関先に出て手入れを行っている	◎	○	○	事業所は幹線道路に面しており、事業所前には職員等の駐車場が完備されている。玄関先にはプランターが置かれ、プチトマトなどの野菜や花を育てるなど、来訪しやすい雰囲気づくりをしている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	壁には季節感を表すような壁画を飾り、季節ごとに色々な飾りを一緒に作ったりしている。リビングには家庭にありそうな物を手の届くところに置き手を延ばせば取れる様になっている	◎	○	○	共用空間にはテーブルやいすが置かれているほか、片隅にはオープンキッチンが配置されている。フロアには、利用者と一緒につくった風鈴には七夕の願いごとが書かれた短冊のほか、行事の写真などが飾られている。また、手先の器用な職員が趣味の折り紙で作成した彩り豊かな千羽鶴や箱の飾りも飾られ、利用者や来訪者の目を楽しませてくれている。毎日、職員が共用空間を清掃するほか、換気もされ、清潔保持をしている。また、広い廊下を活用して、歩行訓練をしている利用者もいる。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の掃除は欠かさず行っている。汚れが目立つ所はその都度綺麗になる様に掃除している。出来るだけ大きな音を立てない様に配慮している					◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を生けたり、会話の中に取り入れれたりして工夫している					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	個々のレベルや相性に配慮して過ごして頂いている。ソファを置き気軽に会話出来る様にしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンとドアで見えない様にしている。使用時は必ずドアを開けて使用している					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時になるべく新しい物は買わず、今まで使用していた使い慣れた物を持ってきて頂くように話している	◎		○	居室には、ベッドやエアコン、棚などが備え付けられている。タンスやテレビなどを持ち込んでいるほか、家族の写真やカレンダーを飾り、居心地良い空間づくりをしている。車いすの利用者もおり、動線確保などのため、すっきりと片付けられている居室も多い。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自室がわからない利用者には自室に目印を付けたリ、触ってはいけない物は手の届かない所に置き、安全に生活が出来る様に工夫している			○	利用者が居室を間違えないよう、入り口には色紙を貼ったり、名前の表示と写真を表示したりするなどの工夫をしている。廊下などには手すりが設置され、利用者の動線には物を極力置かず整理されている。また、利用者の使用できるトイレは各ユニットに3か所ずつ設置されている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	持ちには必ず名前を記入している。自室の椅子やベッドなどは安易に配置換えしない様にしている					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	馴染の物は手の届く範囲に置いている。裁縫道具など利用者が使用を申し出た時には断る事はせず、一緒に使用し見守りを行っている					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	出入り口の鍵は夜間しか、かかっていない。鍵をかける事の弊害を職員はきちんと理解している。研修等も行っている	◎	◎	◎	事業所には身体拘束適正化委員会があり、施設内研修や話し合いなどで、職員は鍵をかけないケアを理解している。帰宅願望や外に出たい利用者もおり、職員は玄関やユニットの出入り口付近で声かけなどの対応をしている。また、夜間は防犯のため、20時から朝7時まで玄関等の施錠をしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	利用者が受ける影響について説明し、理解してもらっている					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入り口付近には必ず職員がいるようにして、リビングに職員が居ない状況を作らない様にしている。その場を離れる時には声掛けを行っている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	アセスメントや、かかりつけ医の情報提供等を参考にして把握している				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	どこか違うな？いつもと様子が違っている等、介護記録に記入し又口頭でも伝えている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	看護職員が常時いる様な体制になっている。協力医療機関の看護師とも長年の交流がありいつでも相談できるようになっている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	利用者と家族の意向に沿った病院を受診している。家族とかかりつけ医を受診されている利用者もいる	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入所以前からの医療機関に、入所後も行かれていた利用者もいる。家族、利用者の希望を優先している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診前には必ず許可をもらい、受診後には検査結果の連絡を必ず行っている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	サマリーと合わせて詳しい情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	途中経過等、こまめに連絡を入れ情報を交換している。また入院時にカンファレンス等への参加を家族に同意を頂き必ず参加させて頂いている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	救急時以外の病院は、提携医療機関なので顔見知りの相談員さんがいたり、職員さんがいたりする				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日常生活の中で得た情報は看護師に相談し、看護師から協力医療機関の担当看護師に相談報告出来ている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間のオンコール体制が出来ている。どんな時間でも電話を掛ければ必ず看護師又は医師が対応してくれています				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	日々の生活の中での気付きは職員全員で共有し、看護職に相談、看護職から協力医療機関の担当看護師に相談できている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	新規に処方された薬等薬剤師からアドバイスや説明を受けている。薬の情報も分る所に置いていて、職員全員が見れる様になっている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬は、朝、昼、夜、眠前と色分けラインを引き分けており、日付けも記入されている。服用前には本人の前で名前、何日の何時の薬かを読み上げてから服用して頂いている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の副作用や調整については、利用者の体調を見ながら医師と相談を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	体調の変化や飲んでからの様子は細かに介護記録に残し、往診時などに情報提供している				

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時終末期のあり方について話を聞いている。状態変化があった時はその都度は話し合い意向をお聞きし、方針を共有している	/	/	/	事業所には、「重度化した場合の対応に係る指針(看取り介護指針)」があり、入居時に利用者や家族に説明して、同意を得ている。事業所として、看取り加算は取っていないものの、利用者や家族の希望に応じて、可能な限り対応をしている。指針には、終末期などの段階に応じた対応や職種毎の役割も記載されている。事業所として、看取り介護の経験も多く、看護師の配置があるほか、協力医と24時間体制のオンコールができ、利用者や家族、職員には安心感がある。また、長年の連携で協力医と相談しやすい関係も構築されている。さらに、重度化や急変時には、病院や施設へ転院する利用者も多い。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	協力医療機関、家族、職員で話し合いを行い共有している	○		○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期の対応については職員間で話し合い、個々の思い、力量等把握し、支援の見極めを行っている	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族にはホームにて出来る事、出来ない事を話しているが、理解が得られない事がある時には、詳しく解りやすく説明を行っている	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族の思いはその都度変わる事があるので、細かな話し合いを行いながらチームで支援出来る様に体制を整えている	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	話し合いを重ね支援を行っている	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	ホーム内の研修にて定期的に勉強を行っている	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	ホーム内の研修にて実際に嘔吐物処理の実演を行ったりして対応が出来る様に体制を整えている	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	医師会のメルマガ、テレビ、ネット等で情報収集している、介護保険課からもメールを頂いている。地域の感染情報等、子供のいる職員からも情報収集している	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	医療機関や地域の情報を元に特に職員への注意喚起を行っている	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	コロナウィルスの流行もあり徹底している。玄関に張り紙をし、消毒液、マスクも設置している	/	/	/		

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族の側に立ってお話をお聞きしている。面会時には必ず声を掛けている				コロナ禍以前は、事業所の夏まつりやクリスマス会など、社協に紹介してもらったボランティアや家族に参加協力してもらい、行事を開催することができていた。現在のコロナ禍において、事業所では面会制限を設けているものの、LINEのテレビ電話を活用した家族とのオンライン面会のほか、透明のビニールカーテンを活用した玄関入り口で、対面での短時間の面会にも対応する工夫もしている。また、事業所から利用者の日々の様子の写真を添付した手紙を送付したり、掲載の許可を得られた場合にはブログで日々の様子の情報を発信したりしている。また、家族の来訪する機会が減少していることもあり、事業所では介護計画の更新時の家族の確認をチャンスと捉え、意見や要望を聞くようにしている。運営上の事柄など、利用者家族のアンケート結果から伝わっていないことが窺えるため、今後は手紙の送付時に事務連絡を添えたり、コロナ禍の収束後には家族の来訪時に報告をしたりするなど、家族の理解が得られるような取組みを期待したい。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時にはお茶をお出ししたりと、心地よく過ごせる様に対応している。出来るだけ利用者と家族の間には立ち入らず、一緒に過ごして頂く時間を大切にしている					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	コロナ禍で行えていないのが現実だが、行事やお出かけ等のイベントがある時には声掛けを行っている。一緒に行えるイベントも企画している			○		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	月に一度は必ず手紙にて近況を伝えている。LINE可能な家族様には動画や写真もお送りしている			◎		○
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	必要時には連絡を行っている					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時や、必要な時には連絡を入れて家族様との関係をお聞きしている。対応についての相談も行っている					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事等必要な事は連絡を行っている。職員の移動、退職については運営推進会議にてお知らせをしている			×		△
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事や運営会議のお知らせを行い参加を募っている					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	入所時だけでなく随時説明を行い、対策を話し合っている					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	何かあった時には報告を行い、気がかりな事はないかお聞きしている。研修にて接遇について学び、家族に寄り添える環境作りに努めている					○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	入所時に契約書を読み上げ説明を行い納得して頂いている					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居については、退居理由が契約に基づくものか判断し、利用者、家族に納得行く支援を行っている。また必要書類も手渡している					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	重要事項説明書に記載している。説明も行い同意を得ている					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	会議に地域の方をお呼びして交流を深めている。事業所の目的や役割等説明して理解をして頂いている	/	◎	/	コロナ禍以前は、町内会の夏祭りに参加したり、市民大清掃などに参加協力したりすることができていた。事業所周辺の散歩時には、地域住民に挨拶をしている。事業所は幹線道路に面し、周辺には住宅が少ないこともあり、地域住民が来訪する機会はほとんどない。新たに町内会長を通じて、運営推進会議の参加メンバーに協力的な民生委員を紹介があり、地域の情報提供や行事参加へ呼びかけてもらうなど、今までは地域とのつながりが少なかったものの、事業所では地域とのつながりが深まるよう取り組んでいる。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	外出、散歩時には積極的に挨拶を交わっている。現在コロナ禍で運営会議等行えていないが、町内会の民生委員さんが会議に参加して下さる様になりました	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	増えていると思う	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	遊びに来られる方はいないが、気軽に立ち寄れる様に機会があればお誘いしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	声を掛け挨拶をおこなっている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地域の行事への参加を声掛けて下さり少しずつつながりが出来ていると感じている。コロナ禍で色々な事が出来てないが、出来る様になったら参加したい	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	町内の夏祭りへのお誘いがあり参加させて頂いた事がある。コロナ禍にて色々な行事が中止となってしまっているが、行ける様になったら参加させて頂きたいと思っている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近くのお店やコンビニ、パン屋など頻繁に出かけ買い物を行っている。大分額も覚えて頂いていたが、コロナ禍にて今は外出出来ない	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回お誘いしているが、なかなか参加が得られていない	○	/	○	現在のコロナ禍において、運営推進会議は文書開催になっているものの、事前の開催案内時に参加メンバーに「質問連絡アンケート」を送付し、市担当者や町内会長などから多くの意見をを得ることができている。会議には、新たに地域の民生委員が参加するようになり、地域行事の情報提供をしてもらったり、地域とのつながりなども働きかけたりするなどつながりができそうな矢先に、コロナ禍で集合形式での会議開催がなくなったことを管理者等は残念に思っている。また、コロナ禍以前の会議は、フロアで開催していたこともあり、数名の利用者に資料を配布して参加してもらうこともできていた。さらに、会議を夕方や日曜日など、参加メンバーが参加しやすい日や時間帯の試行錯誤をしたり、新たな利用者家族には会議への参加を呼びかけたりするなど、少しでも多くの参加が得られるよう工夫している。加えて、会議の中では、転倒事故や活動状況などの報告をするほか、感染症対策や薬の管理などのテーマを議題に取り上げて、一緒に学んだり、意見交換をしたりすることができる工夫もしている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の結果や目標達成計画の報告を行っている	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	提案があった時には、職員、上司と相談して、取り組みに生かせないか相談している	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加しやすい様に、日曜開催や行事に合わせて開催を行ったり、工夫している	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関エントランスに一年分置いて公表している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業理念はリビングに掲示しており、ユニット会議にて毎回読み上げている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	ケアプラン等の意向を確認する時等に電話等で理念を伝えている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	外部研修も受けられる制度もあり、個々の職員からの希望も受け付けている。職員に合った研修を選んでいる事もある				毎月実施しているユニット会議を活用して施設内研修を実施し、職員のスキルアップに努めている。現在のコロナ禍において、資料を職員に確認してもらったり、外部研修に参加したりする機会は減っているものの、事業所として法人本部に起案書を上げると、外部研修の参加費などの助成を受けることもできるようになっている。法人として複数の事業所などを経営しているため、代表者までの来訪はないものの、定期的に法人の部長の来訪があり、話し合いをするほか、月2回法人の管理者会議があり、意見交換をしている。また、法人・事業所として、食事会の経費助成などの福利厚生を充実させたり、職員の希望休のほか、定められた有給休暇の取得を進めたりするなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、パート職員が働きやすいよう勤務の日数や時間帯の要望にも対応している。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎日の中で職員と話し合い、スキルアップに繋げている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回の勤務評価を実地して、評価が高い職員は賞与に反映させている。長年勤務している職員には功労金が出る退職金制度があり福利厚生に力をいれている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域包括の事業者連絡会 研修等に参加して同業者との交流に努めている				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	個々の職員と気軽に話をしたり、悩みを聞いたりしている	◎	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	定期的に研修を行い理解している				事業所では、年4回身体拘束適正化委員会を実施している。委員会には、管理者とホーム長、ユニットリーダー等が参加し、虐待防止や不適切なケアなどの話し合いをしている。毎月ユニット会議を活用して実施している施設内研修のテーマにも年2回取り上げ、職員は学ぶことができている。不適切なケアが見られた場合には、管理者等が後で注意喚起するほか、職員同士で見つけた場合には、対応している職員を交代している。また、ホーム長等が2階のユニットにも定期的に顔を出して職員に声をかけ、職員がストレスや悩みを抱えていそうな場合には話を聞き、人がいないような場所で大声を出して少しでもストレス解消するよう促したり、休める状況であれば有給休暇などの取得を進めたりする対応をしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ユニット会議や、昼休憩等時間を見つけて話し合う機会をつくっている。ショートミーティングで話し合う事もある				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修で勉強し、話し合い対応方法や手順は理解している。職員間で見つけた場合は気軽に注意出来る様な雰囲気作りをしている			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	業務の中での言動に注意している、ストレスを抱えていそうな職員には声を掛け話を聞いている				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	身体拘束適正化委員会の中で話し合い理解している				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3か月に一度開催して話し合いを行っている。また日々の業務の中でも今行っている事が身体拘束にならないか？話し合っている				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族は比較的簡単に拘束してください。と言われる事もあるので、その都度弊害についてお話し理解を得ている				

愛媛県グループホームすみれの里

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修等で学び理解している				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	家族の現状を把握するよう努めている。制度利用の相談があれば情報を提供している				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	空き情報があればすぐに連絡を入れている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	対応マニュアルを作成し、見やすい所に置いて観れるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修を定期的に行い学び身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットの記入を行っている。事故報告は再発防止のために職員間で閲覧している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	1人ひとりに起こりうるリスクについては十分に話し合いを行い対策を講じている。毎日の申し送りでも気が付いたことは話し情報を共有している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルがあり職員は内容を十分に理解している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応を行っている。市長村に報告しなければならない苦情は今のところ無い				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	まず、苦情内容をしっかりと聞き、対策を検討して速やかに対応している。経過報告も行い話し合いながら納得してもらうようにしている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別にお話をお聞きしている。直接苦情を言いに来られる方もおられる。事業所には苦情の相談窓口もある			○	日々の会話の中で、職員は利用者から意見を聞き、「○○が食べたい」などの意見が出され、献立に反映したり、餃子パーティーなどを実施したりするなどの対応をしている。家族からは電話連絡時に意見を聞くほか、LINEなどのSNSを活用して、意見交換をする場合もある。また、管理者やユニットリーダー等はユニット会議などを通じて職員から意見を聞いており、法人の管理者会議の中で意見を伝えたり、起案書を書いて法人本部に上げて、意見が反映されたりすることもある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくらせている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	重要事項説明書に記載している。説明も行き同意を得ている	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談の内容により必要な所を紹介している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくらせている。	○	月に2回話し合える機会がある				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	会議等で積極的に意見や提案が出ている、会議内容は会社に送っている			◎	

愛媛県グループホームすみれの里

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価している				外部評価の自己評価は、職員の意見を参考にしながら、各ユニットのリーダーを中心に作成している。サービスの評価結果は運営推進会議の中で報告するほか、ユニット会議などを活用して、職員にも周知している。また、事業所では目標達成計画を職員間で話し合って作成し、取り組み状況も確認している。現在のコロナ禍において、取り組み状況の確認などのモニター協力までには至っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価する事で明らかになった現状や課題が次の目標となり、学習の機会として活かしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	地域、家族の評価は特に参考になり目標達成に向けて事業所全体で取り組んでいる				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	地域運営推進会議にて報告している、今後の取り組みについても話し合っている	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	ユニット会議にて取り組みの成果を確認している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成している				年2回、消防署の協力を得ながら、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。事業所は、重信川流域の「まつやま洪水ハザードマップ」の浸水の可能性のある地域に指定されており、「洪水時の避難確保計画」を作成している。水害を想定した訓練では、実際に利用者を毛布にくるんで、2階へ避難する体験もしている。また、前回の外部評価結果から、目標達成計画に「事業所の防災・災害計画の取り組みや対応について、家族様に知ってほしい」という目標を掲げ、事業所内のエントランスに前回参加した地域防災訓練に参加した状況の写真のほか、実際の避難経路順を写真を交えて表示するなどの工夫をしたものの、現在のコロナ禍において面会制限もあり、家族の来訪もほとんどなく、周知までには至っていない。今後、コロナ禍の収束後には、事業所の避難訓練に家族の参加を呼びかけて、一緒に訓練したり、家族が参加できる行事の時に、訓練報告や話し合いをしたりするなど、事業所の災害発生時の安全対策について、少しずつ家族に理解が得られることを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	消防避難訓練でアドバイスを頂いた事を参考に、訓練を行っている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検はセコムと契約しており、定期的に行っている。備蓄食料も定期的に点検を行っている				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	会議での話し合いは行えている	x	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害連絡網には地域の方の連絡先も入っている。避難経路、避難場所には利用者と一緒に歩いて行っている				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	地域包括主催の研修等に参加している。運営推進会議にて情報発信している				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の高齢者には声掛けをしている。近所の見学者を優先して相談にも乗る様に努めている		○	○	事業所では入居相談のほか、地域住民から相談のあった場合は対応している。運営推進会議を活用して、認知症などをテーマとして議題に取り上げ、地域から参加者にも啓発している。事業所周辺を一人で歩いている高齢者がいた場合には、職員が声をかけて様子を見るようにしている。また、事業所では、市介護保険サービス事業所連絡会に参加したり、地域包括支援センターの研修に参加協力したりしている。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	地域の要望があればいつでも事業所を開放する予定はある				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望があれば応じる これからも地域の研修や人材育成の相談はいつでも応じる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	コロナ禍にて行えていないが、夏祭り、市民大清掃などに参加していた。今年は職員にて付近の草抜き清掃等行う予定がある			○	